平成２５年度

国際理解教育研究大会報告書

第２１回岡山県国際理解教育研究大会

倉敷大会

「世界の中の日本，学び合う国際理解教育」

～国際感覚を豊かにするために～

期日：２０１３（平成２５）年８月２２日

会場：くらしき健康福祉プラザ

〒 710-0834　倉敷市笹沖 180 番地

主催：　全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会

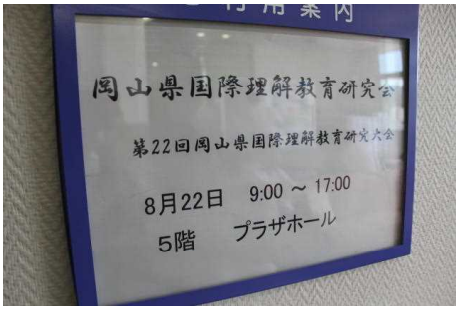
岡山県国際理解教育研究会

後援：　岡山県教育委員会　岡山市教育委員会

倉敷市教育委員会

（財）福武教育文化振興財団

第21回　研究大会



報告書

平成２５年度

第２１回岡山県国際理解教育研究大会

開 催 要 項

１　大　会テーマ　「世界の中の日本　学び合う国際理解教育」

～持続可能な社会の担い手づくりを目指して ESDの視点から～

２　期　日　　平成２５年８月２２日（木）

３　会　場　　くらしき健康福祉プラザ
〒 710-0834　岡山県倉敷市笹沖 180 番地

４　主　催　　全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会
岡山県国際理解教育研究会

５　後　援　　岡山県教育委員会　岡山市教育委員会　倉敷市教育委員会
津山市教育委員会　福武教育文化振興財団

６　日　程

13:00　13:30　13:50　14:50　15:00　15:20　16:30

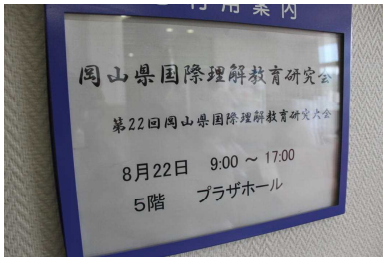
受付	開会行事	実践報告①	②	③	休憩	情報提供	講　演	閉会行事

７　実践報告

テーマ	主　題	報告者
① 国際理解教育	「ちょっと国際理解教育」 岡山県国際理解教育研究会の取り組み	村尾　剛介教諭 （岡山市立岡山中央小学校）
② 外国語教育	「話したい，聞きたい，伝え合いたい 子どもを育てる英語教育」	吉平　万里子教諭 （岡山市立石井小学校）
③ 海外子女教育	「台北日本人学校での取り組み」	山口　佳子教諭 （早島町立早島小学校）

８　講　演　　**『ESDって何？　～ESDの視点で育てたい子ども～』**

講師　原　明子　さん　（岡山市ESD世界会議推進局副主査）



９　その他

○情報提供

全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会から，国際理解教育の現状や，海外日本人学校・補習校の様子などをお知らせします。

○展示

日本人学校派遣者が海外から持ち帰った物や写真を展示します。

○日本人学校へのアプローチコーナー

日本人学校に派遣を希望されている方，お気軽にご相談ください。

目　　次

１　研究大会を終えて（会長挨拶）　・・・・・・・・　１

２　講　演　「ＥＳＤって何？～ＥＳＤの視点で育てたい子ども～」　・・・・・・　２
講　師　原　明子さん
岡山市ＥＳＤ世界会議推進局副主査

３　平成２５年度研究課題　・・・・・・・・７

４　実践報告　・・・・・・・・９
ちょっと国際理解教育　岡山市立中央小学校　村尾　剛介
台北日本人学校での取り組み　早島町立早島小学校　山口　佳子
聞きたい，話したい，伝え合いたい子どもを育てる英語教育
岡山市立石井小学校　吉平　万里子

５　外国人子女教育の実践（全国大会発表）　・・・・・・・・１８
岡山市立津島小学校　三好　隆志

６　情報提供　・・・・・・・・２８
全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会　監事　松下　安男

７　各国の紹介・展示コーナーなど　・・・・・・・・３３

８　あとがき　・・・・・・・・４４

研究大会を終えて

岡山県国際理解教育研究会　会長　鳥居　恭治
（岡山市立江西小学校長）

猛暑が続いた８月２２日，倉敷で開催しました第２１回岡山県国際理解教育研究大会に多数の方がお越し下さりありがとうございました。

公私多忙の中お越し下さった，岡山県教育委員会教職員課参事　平賀和治様，倉敷市教育委員会学校教育部長　石田隆様，そして，当日全国の情報を提供頂いた全国海外子女教育国際理解教育研究協議会　監事　松下安男様，ありがとうございました。

講演をお願いしました岡山市 ESD 世界会議推進局副主査　原明子様には，「ESD って何？　～ ESD の視点で育てたい子ども～」の演題で，ESD の歴史・目的・事例，そして持続可能とは，どのように考えるのか。ESD のプログラム作りのヒントなどを時間いっぱい教えて頂きました。本会のこれからの活動の一つの方向を示唆して頂きました。

実践発表をして頂きました３名の先生方にも，お礼を申し上げます。そして，県大会に参加下さった会員や一般の方々に，そして，今回の大会を担当して頂きました備中地区の会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

現在，教育には，グルーバル人材の育成が求められています。子どもたちが世界に目を向け，世界の中の日本を担っていくことが出きるような教育が求められています。本会が研究課題としている「多文化理解」「コミュニケーション」のテーマで「自分の意見や存在に自信をもつためには，他から共感を得たり，お互いの存在を認め合ったりすることが大切である」ことを子どもが実感できるように実践していくことがこれにつながると考えます。また，今回の講演を受けて，ESD の考え方も生かしていけると思っています。世界中の日本人学校での経験を生かして，子どもたちが世界で生きること，国際感覚を豊かにすることを通して，国際理解教育を今まで以上に積極的に推し進めていくことができればと思っております。

平成２３年度から岡山県の組織を，備前・備中・美作の３地区に分け，それぞれの活動をしていくと同時に県大会も地区開催と決めました。そして，今年度は備中地区が実践発表を中心としての県大会を開催することができました。来年度は，美作地区での真庭市立川東小学校を会場としての授業公開を伴った県大会の開催となります。この大会は，平成２６年度の中国ブロック大会になります。

また，今年度も帰国報告会を県教育委員会と岡山市教育委員会の参加を頂き開催できました。都合で帰国者全員の発表にはなりませんでしたが，来年度以降も続けて行きたいと思っております。

会員の地に着いた実践が続きますようお願い申し上げます。

『ESDって何？～ESDの視点で育てたい子ども～』

岡山市 ESD 世界会議推進局　　原　明子

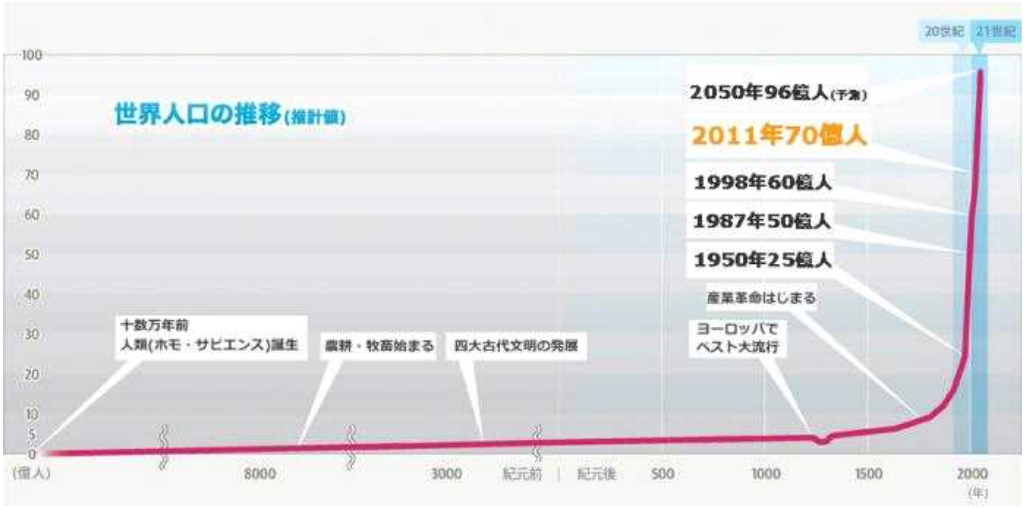
まず，自己紹介をします。１９９１年度に日本ユニセフ協会で学校の啓発の仕事を始めました。そして，２００４年度からＥＳＤの推進を岡山市職員として始め，現在はＥＳＤ世界会議推進局副主査として，世界大会の準備で公民館を回ったり，小中高で出前授業を行ったりしています。

本日の講演の目標はＥＳＤを知り，身近に感じていただくことです。

さて，ＥＳＤとは何でしょうか？１つは教育の流れで，全ての人が同じように教育を受けられるようにしていこうというものです。もう１つは経済発展に伴う公害や環境破壊に関わることです。そのような問題を，国を超えてみんなで解決していかなければならない，という考え方なのです。これは，リオデジャネイロでの環境サミットにおける，ある少女の有名なスピーチです。「どうやって直すか分からないものを壊していくのはやめてください。」

ＥＳＤという考え方は，いつ生まれたのでしょうか。まず，１９４８年に「世界人権宣言」で，全ての人が教育を受ける権利を持つとうたわれました。１９７２年に「国連人間開発会議」（ストックホルム）で環境問題は，人間と環境の関係から生まれるものであるという認識が生まれました。国連環境計画 UNEP も発足しました。そして，１９８７年に「我ら共通の未来」ブルントラント委員会が「持続可能な開発とは、将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発という「持続可能」という言葉が初めて登場しました。続いて１９８９年に「子どもの権利条約」で，全ての子どもに基礎教育を，１９９０年には，「万人のための教育世界宣言」で，全ての人に基礎教育をと定められました。１９９２年の「国連持続可能な開発会議」（地球サミット：リオデジャネイロ）アジェンダ２１（行動計画）第 36 章で，持続可能な開発に教育の重要性 が述べられました。２０００年には，「ミレニアム開発目標（MDG ｓ）」で１５年間で達成すべき具体的な数値目標が設定されました。２００２年 「持続可能な開発に関するサミット」（ヨハネスブルグ）では，日本が「持続可能な開発のための教育の 10 年」 を提唱し，その３年後に開始されました。２００９年には「ESD 世界会議」（ボン），２０１２年には「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」，そして来年には「ESD に関するユネスコ世界会議」（愛知、岡山） が開催されるわけです。

次に，「持続可能」とはどういうことでしょうか？



上のグラフのように，爆発的な人口増加が報告されています。それは，埋蔵エネルギーの発見との関わりで起きました。こうした人口増加に食料増産が追いつかないため，このままでは「持続不可能」となってしまいます。つまり資源の有限性，大量生産，大量消費，大量廃棄，生態系の破壊，人口増加，不平等な分配などの生活スタイルを変えていかなければならないということなのです。それは，教育の力で変えていくことが大切です。そこで，２００５年には，ＥＳＤ教育が開始されました。それは，あらゆる人々が地球の持続可能性を脅かす諸問題に対して計画を立て，取り組み，解決方法を見つけるための教育です。これらの問題は，持続可能な開発の３つの領域である環境，社会，経済の要素が複雑にからまりあっています。

●持続可能性に関する諸問題（「ESDの10年国際実施計画」より抜粋）

ESD はあらゆる人々が地球の持続可能性を脅かす諸問題に対して計画を立て，取り組み，解決方法を見つけるための教育である。これらの問題は，持続可能な開発の３つの領域である環境・社会・経済に起因している。

＜社会＞雇用，人権，ジェンダー，平和，人間の安全保障など

＜環境＞水や廃棄物など

＜経済＞貧困削減，企業責任とアカウンタビリティなど

＜複数の領域＞ HIV/AIDS，移民，気候変動，都市化など

これらの大問題は非常に複雑であり，解決方法を見出すには，現在および次世代のリーダーと，市民のための，広範囲で精巧な教育戦略が必要である。

地球の持続可能性を脅かす複雑な諸問題に対処するための教育が ESD の課題である。これは，教育改革のみでは達成されないであろう。社会のさまざまな部門による，広範囲で真摯な取組が必要であろう。

アクティビティ①　３人組になり，自己紹介しました。

アクティビティ②　３枚の写真（マリ，アルバニア，アメリカの中流家庭の家財道具を全て屋外に出して，家族と一緒に写したもの）を使って授業をするとしたら，どのような発問をするか，できるだけたくさん考えました。（制限時間３分，個人作業で）

〈発問の例〉・あなたの家にもある物はありますか？
・日本と関わりのある物はありますか？

アクティビティ③　ＥＳＤを進めるためには，何を変えたらよいのか？を考えました。

〈回答の例〉エネルギー，技術，貿易，意識，価値観

〈参加者からの質問〉発展の限界をどのあたりに設定しているのか？（人口，年代）

〈質問に対する答え〉ある学者は，アメリカ合衆国の平均的な生活を全世界で行うためには，地球が２．４個必要であるのに対し，インドのそれなら０．８個分ですむ，と述べています。ただし，研究者によって意見は様々なので，私個人としてはっきり答えることはできないです。明らかなのは，今のままでは成り立たないということでしょう。タイムリミットもはっきりは分からないのですが，急を要する課題であることは間違いないです。

〈参加者からの質問〉価値観をいかに変えていくか？

〈質問に対する答え〉価値観のちがいが，国際紛争の原因にもなっています。

アクティビティ④　②のアクティビティで考えた発問の中で，ＥＳＤにつながると思うものに○をつけました。「価値観」につながるものには◎をつけました。３人でシェアした上で，その発問を使って授業をするとしたら，どんな授業にするか？その授業のねらいを紙に書きました。そして，ねらいを書いた紙を，ステージ上のホワイトボードに貼って共有しました。

〈ねらいの例〉・幸せと豊かさについて考える。
・くらしに必要なエネルギーを考える。
・全地球人が「幸せ」と思うのはどんな生活かを考える。

→　これらのように，はっきりした正解がない発問が，ＥＳＤらしいです。新しい価値観をつくっていくことが大切です。

●ESD事例具体的な取り組み

＜持続可能性の文脈に即して，地域の課題と今までの取り組みを見直す。＞

１．となりの国の昼ごはん　＠公民館

＜課　題＞在住外国人にその国の料理を教えてもらう講座をしていますが，相手の文化を知るだけで，人間同士の心の交流につながっていないことが多いようです。そこで，外国の料理教室をＥＳＤの視点で実施すると，例えばオーストラリアの料理をみんなで作って食べて，「おいしかった」で終わっていたのが，岡山に住んでいるオーストラリア人が，何のために来ていて，どんなことで困っているのかをもっと知ろうというような活動が考えられます。

２．多国籍防災会議　＠公民館（地域に住んでいる外国人と一緒に防災教室を行う。）

同じ地区に住む人への偏見をなくすことがねらいです。防災教室のための話し合いを重ねていくことで，偏見が少しずつなくなっていきました。さらに，国際的な視野で考えるとともに，日本のことも足元を見て考えられるようになりました。

講師の価値観を変えたできごと

カスミサンショウウオの卵の写真を見て，思わず「気持ち悪い！」と言ってしまった時，先生にひどく叱られました。その後，自分の視野の狭さにやっと気づいたのです。外国への偏見に対しては人一倍腹が立つ性格なのに，自然に対しては全く同じような気持ちがもてていなかったのです。自然の中で生かされているにもかかわらず，その自然を大切に受け止めていない自分がいました。

●価値観（「ESDの10年国際実施計画」より）

自分自身の価値観，自分が暮らしている社会の価値観，世界中に住むさまざまな人々の価値観を理解することは，持続可能な未来のための教育の中心部分である。それぞれの国，文化的集団，個人は，おのおのの価値観を認識する技能，そしてこの価値観を持続可能性という文脈の中で評価する技能を修得しなければならない。ESDの各プログラムでどの価値観を教え，学習するかは，議論すべき課題である。目標とするのは，持続可能な開発に内在している原則と価値観について十分に情報を得た上で，地方に根ざし，文化的にも適切な価値観を創造することである。

●ESDのプログラムづくりのヒント（私案）

1．「何のためにするのか」（根源的な問い）見直す。
2．「どんな未来をつくりたいか？」「持続可能な社会ってどんなことか？」を意識する。
3．見えない関係性を知ることから、よい関係性に修正することができる。（つながりの再構築）
4．多面的，多様な見方，考え方を尊重する。（レジリエントな社会。誰も正解を知らない。答えはひとつではない）
5．総合的，統合的な見方，考え方をする。（問題は複雑。俯瞰してみることも大事。既存の学問の枠では収まりきれない課題。）
6．時間的，空間的広がりで考えてみる。
7．課題を解決できる力をつける。（知識を持っているだけでは解決できない）
8．グローバル，ローカルに・・地球規模⇔地域や自分
9．無理にそのとき結論を出さなくていい。プロセスを大切に
10．行動してみる。振り返り，再試行・・学びのスパイラル
11．協働する（立場の違う，意見の違う人と一緒にやることも大事）
12．主体的に学ぶ，お互いから学ぶ，楽しく学ぶ（先生も生徒も）

＜ご参考＞ミレニアム開発目標：以下の項目について 2015 年までの到達目標が合意された。（2000 年）

1．極度の貧困と飢餓の撲滅
2．普遍的初等教育の達成
3．ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
4．乳幼児死亡率の削減
5．妊産婦の健康の改善
6．HIV/エイズ，マラリアおよびその他の疾病の蔓延防止
7．環境の持続可能性の確保
8．開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

岡山県国際理解教育研究会　研究課題

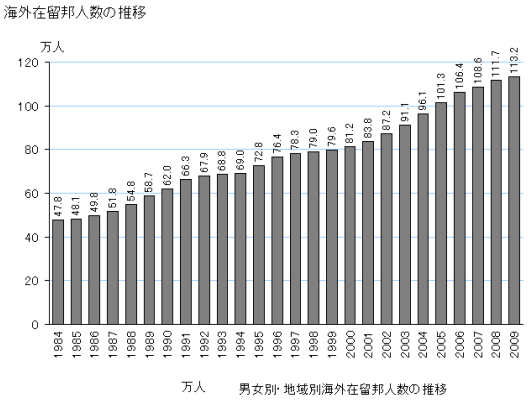
１　研究課題

Ⅰ　多文化理解〈・人間理解（人権）　・多文化理解　・世界の現実理解　〉
Ⅱ　コミュニケーション〈・コミュニケーション　・外国語教育　〉

２　新しい研究課題設定の背景

（１）　社会からの要請

外務省「海外在留邦人数調査統計」によれば，我が国の領域外に在留している日本人の数は，その増加率が減ってきており，放物線の頂点に近づいている様相をみせているという。



資料　外務省「海外在留邦人数調査統計」

しかし，微増とはいえ，海外在留邦人が１１０万人を越えている状況は，我が国と諸外国とのつながりが深いという事実に変わりはない。

また，いくつかの企業が社内公用語を英語にすると決定したことが大きなニュースとして取り上げられたり，いわゆる「若者の内向き傾向」がとりざたされていたりもしている。

私たちは，すでに「地球規模化=globalization」している国際社会の一員であり，「国際理解教育」なくして我が国の教育は語ることがはできないのである。

（２）　新学習指導要領からの要請

中央教育審議会の答申によると，「２１世紀は，新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す，いわゆる『知識基盤社会』の時代である」と言われている。「知識基盤社会」の特質として，「①知識には国境がなく，グローバル化が一層進む，②知識は日進月歩であり，競争と技術革新が絶え間なく生まれる，③知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く，幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる，④性別や年齢を問わず参画することが促進される」などとされている。

そのような「知識基盤社会」を生きる子どもたちが自己責任を果たし，他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには，基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見いだし，解決するための思考力・判断力・

表現力等」が必要であると同時に，世界や我が国社会が「持続可能な発展」を遂げるためには「共存・協力」も必要であるといわれている。

「国境のない知識」「グローバル化」「パラダイムの転換」「共存・協力」などというキーワードは，まさしく「国際理解教育」がめざすものと同一である。

（３）　教育現場からの要請

「生きる力」を培う領域として華々しくデビューした「総合的な学習の時間」であったが，「学校行事・イベントの時間としての扱い」「教師の企画力不足」などと，創設当時の元気はどこに行ってしまったのかという感が否めない。「各教科での知識・技能の習得と総合的な学習の時間の課題解決的な学習や探求学習との間に段階的なつながりが乏しい」との指摘もあり，もう一度「自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力」という「生きる力」について考え直すことが求められている。「総合的な学習の時間」の一領域として例示された「国際理解」についても例外ではない。

（４）　岡山県国際理解教育研究会の研究の経緯からの要請

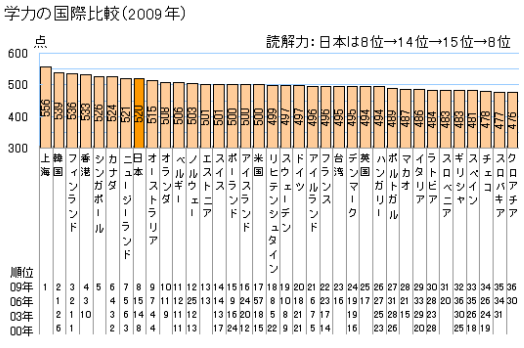
本研究会は，今まで研究課題を「人間理解（人権）」「多文化理解」「世界の現実理解」「コミュニケーション」「外国語教育」という５つの研究課題を掲げて実践を積み重ねてきた。

その結果，「人間理解（人権）」「多文化理解」「世界の現実理解」の３つのテーマには，「違いを認めるとともに，同じ人間として共感をもってお互いの人権を尊重しようとする態度を育成する」という共通点があり，「コミュニケーション」「外国語教育」の２つのテーマには，「自分の意見や存在に自信をもつためには，他から共感を得たり，互いの存在を認め合ったりすることが大切である」という共通点があることが明らかになってきた。

３　新しい研究課題の具体化

前述の背景より，本研究会では，平成２３年度より研究課題を「多文化理解」「コミュニケーション」の２つに絞り，新たな実践に取り組んでいくこととした。

各方面からの要請を，実践を通してより確かなものとしていくことが求められている。



資料 OECD「生徒の学力到達度調査」2009

「国際理解教育」は，未来を生きぬく子どもたちを育成するために「自己との対話を重ねつつ，他者や社会，自然や環境と共に生きる，『開かれた個』」の育成をめざしてその具体化を図っていく必要に迫られている。

ちょっと国際理解教育～岡山県国際理解教育研究会の取組～

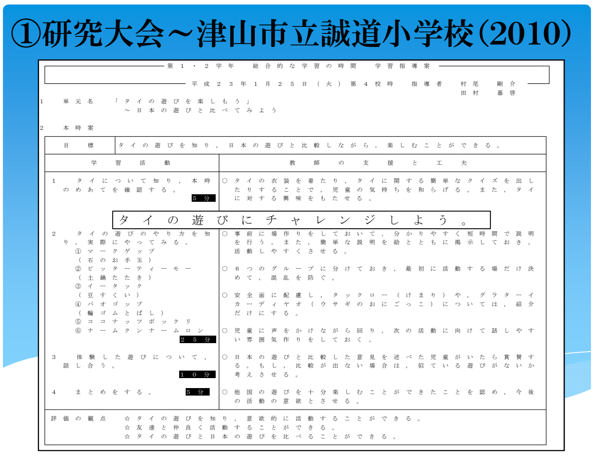
岡山市立岡山中央小学校　村尾　剛介

私は，平成１８年～３年間，タイのバンコク日本人学校に派遣されました。帰国５年目，派遣で得たものを子どもたちにどのように伝えていくかを考えてきました。まず，タイの話をすることにより，子どもたちは日本と比較する国が一つ増えました。次に，この国際理解教育研究会に所属し，事務局で様々な活動をしていくことになりました。国際理解教育とは，グローバル人材の育成ということであります。グローバル人材の育成とは，コミュニケーション能力および語学力，主体性・積極性・チャレンジ精神・協調性・柔軟性・責任感・使命感，異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーとされています。

さて，岡山県国際理解教育研究会の取り組みをお話ししましょう。

① 研究大会

３年前から本会の会員が出前授業を開始しました。研究授業と実践発表の隔年としていて，研究授業は，2010年度が津山市立誠道小学校，2012年度が岡山市立妹尾小学校でありました。そして，来年度は中国大会を兼ねて真庭市立川東小学校で行われます。各国で生活をしていた２００名の会員が，自分の経験を語ることができるのです。



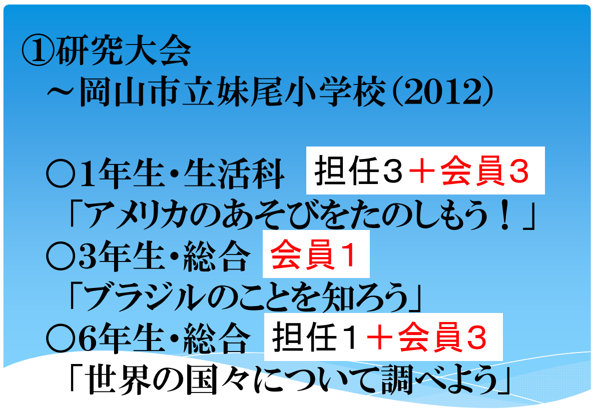
第１・２学年　総合的な学習の時間　学習指導案

平成２３年１月２５日（火）第４校時　指導者　村尾　剛介　田村　嘉啓

1　単元名　「タイの遊びを楽しもう」～日本の遊びと比べてみよう

2　本時案

目標	タイの遊びを知り，日本の遊びと比較しながら，楽しむことができる。
学習活動	教師の支援と工夫
1　タイについて知り，本時のめあてを確認する。　5分	○タイの衣装を着たり，タイに関する簡単なクイズを出したりすることで，児童の気持ちを和らげる。また，タイに対する興味をもたせる。
タイの遊びにチャレンジしよう。	
2　タイの遊びのやり方を知り，実際にやってみる。 ①マークゲップ（石のお手玉） ②ピッターティーモー（土鍋たたき） ③イータック（豆すくい） ④パオゴップ（輪ゴムとばし） ⑤ココナッツポックリ ⑥ナームクンナームロン　25分	○事前に場作りをしておいて，分かりやすく短時間で説明を行う。また，簡単な説明を絵とともに掲示しておき，活動しやすくさせる。 ○６つのグループに分けておき，最初に活動する場だけ決めて，混乱を防ぐ。 ○安全面に配慮し，タックロー（けまり）や，グラターイカーディヤオ（ウサギのおにごっこ）については，紹介だけにする。 ○児童に声をかけながら回り，次の活動に向けて話しやすい雰囲気作りをしておく。
3　体験した遊びについて，話し合う。　10分	○日本の遊びと比較した意見を述べた児童がいたら賞賛する。もし，比較が出ない場合は，似ている遊びがないか考えさせる。
4　まとめをする。　5分	○他国の遊びを十分楽しむことができたことを認め，今後の活動の意欲とさせる。
評価の観点	☆タイの遊びを知り，意欲的に活動することができる。 ☆友達と仲良く活動することができる。 ☆タイの遊びと日本の遊びを比べることができる。



私も，上のように大会でタイについての出前授業をすることができました。

② 国際理解講座

夏休みの図書館開放を利用して，手軽にできることを実施してきました。２年前からの取組で，会場を毎年変えれば，同じ教員が何度でも実施できます。昨年度は，岡山市立中央小学校で，今年度は岡山市立大野小学校で行いました。ＰＴＡとの共催というかたちで，安全面にも配慮しています。

③　自分の学校での取り組み

　私の勤務する岡山市立中央小学校では，小学３年生の総合「発見　発信　私たちの岡山・日本」で私がタイを紹介し，ＡＬＴがイギリスを紹介しました。また，ＪＩＣＡ岡山（キルギス），岡山県国際交流協会（中国・韓国・スリランカ），保護者のフラダンスの先生にも協力を依頼して取り組みました。

最後に，これからの取り組みを紹介します。

①　本会が率先して講座や授業を行っていきたいと思います。

②　新しい情報・資料の提供を主にホームページで行っていきたいと思います。

③　小さいネットワーク（備前・備中・美作の３つの支部）で展開していきます。

台北日本人学校での取り組み

早島町立早島小学校　山口　佳子

１　はじめに

今年３月に帰国し，現在は早島町立早島小学校に勤務しています。台北日本人学校では日本とは違い，子どもたちは自由でのびのびと過ごしていました。母親の学校に対する関心が高く，ほぼ毎日が学校開放のように保護者が学校に来ていました。台湾では，日本の敗戦後に，国際結婚で生まれた子どもの内，２０歳以上は日本に帰され，２０歳未満は台湾に残って家族離散が起きたそうです。そういう事実を初めて知って，戦争という過ちを２度と起こしてはならないということを，改めて感じました。私は，学校で知り合ったバドミントンのコーチと，めでたく結婚することになりました。日本の子ども達のためにこれからも教職をがんばりたいという思いにこたえて，彼の方が日本に来ることになりました。このことが私にとって３年間の１番の財産です。

２　台湾について

台湾は，日本から近く，日本に似ているところも多いです。台湾では旧暦を使用します。旧正月はとてもにぎやかです。５月３１日（旧暦で５月５日）は端午の節句です。台湾では旧正月と中秋の節に並ぶ三大節の一つです。この日には，日本と同じようにちまきを食べますが，他にも有名なドラゴンボートレースがあります。その歴史は，紀元前の中国の春秋戦国時代に楚の屈原（くつげん）という詩人であり政治家だった人物が権力抗争に破れ，国の将来を憂いながら入水自殺したのを惜しんだ人々が，慰霊の念を込めて彼が入水した旧暦５月５日に小舟レース大会を行うようになったことが始まりとのことです。紀元前の話ですので，想像もつかないほど長く深い，文化歴史の流れです。台湾ではこの日各地でドラゴンボートレースが行われます。日本人学校教職員も参加しました。

次に，日本と違って台湾では兵役があります。１８才になったら１１カ月入隊します。ただし，大学生は卒業後になるようです。この兵役については，段階的に規模を縮小していき，2014 年には廃止される予定だそうです。

さて，台湾の現地校について紹介します。台湾の冬は日本よりは暖かいものの，摂氏８度ぐらいの１２月でも，換気のため窓を開放して授業していました。子どもたちは，やはり寒いのでジャンバー着用したままでした。日本のような土の運動場は少なく，ラバーコートが主流です。授業は，ノートを使わず，教科書に書き込んでいました。英語教育が進んでおり，３年生以上は週３時間の授業しています。驚くことに，全学年でお昼寝タイムがありました。教師の仕事は，とても合理的に行われ，４時３０分にはほとんど帰宅しています。

旧正月

現地校の様子

３　台北日本人学校について

台北日本人学校は，創立６６周年です。戦後に現地人が，日本人に残っていてほしいという願いを込めて建てた校舎です。しかし，経営が厳しくなってきています。駐在の子女の場合は会社が補助していますが，それ以外の児童生徒は自費で通っています。週１回ある中国語・英語の授業は，現地の先生が担当しています。現地校との交流もあります。

４　台湾の原住民について

台湾には，17 世紀頃に福建人が移民して来る以前から居住していた政府公認の１４民族が住んでいます。そのうちの１つにフユマ族があります。日本の統治に反対する原住民が日本の学校を襲った，という歴史上の事件が２０１１年に映画化され，日本人の子どもが「日本人は人殺し」と言われたこともありました。だから，友好を深めることを考えました。原住民には歌と踊りが好きな人が多いです。そこで，フユマ族に教わった踊りを日本人学校のスポーツフェスティバルで実施しました。さらに，１２月３１日に行われる現住民の祭りに子どもたちと参加しました。

５　多様性の理解につなげる。

現地の先生と共同で道徳授業を実施しました。中国人通訳を介し，日本人学校の教師と現地人の教師が共同で授業を行いました。台湾の先生のスタイルは，先生がしゃべり子どもがそれを聞いた後，先生の発問に答えるという形でした。３月１１日の東日本大震災において，いち早く海外からの募金が届いたのは台湾でした。「世界中がつながっている」意識を子どもたちにも持たせていきたいと思います。

６　成果と課題

この台湾日本人学校での経験から，知らないことだらけだった自分に気づくことができたのが一番の収穫だと思います。帰国後の現任校で，日本の子どもたちに台湾という国を理解させるのが大変でした。「違うからいけない」ではなく，「違っているからおもしろい」という気持ちにさせたいと考えています。来年度の岡山でのＥＳＤ世界大会もあり，「持続可能な社会の担い手づくりをめざして，ＥＳＤの視点から」関わりやつながりを尊重できる個人を育んでいきたいと思います。

聞きたい，話したい，伝え合いたい子どもを育てる英語教育

岡山市立石井小学校　吉平　万里子

１　はじめに

石井小学校は，岡山駅から徒歩５分という市内中心部に位置し，児童数３２６名で１４学級の規模です。平成１７年度より岡山県の指定で，イマージョン教育推進校になりました。平成２５年度は，下の表のように毎週１時間の外国語活動，朝のイングリッシュタイム，１～４年生は毎週１時間の教科イマージョン（図工）などの内容で行っています。

英語教育の内容（平成２５年度）

1･2年生	3･4年生	5･6年生
外国語活動 イングリッシュタイム （毎週火～金　朝10分間） 教科イマージョン 学習（図工） Happy Break Time （隔週水曜日 昼休み）	外国語活動 イングリッシュタイム （毎週火～金　朝10分間） 教科イマージョン 学習（図工）	外国語活動 イングリッシュタイム （毎週火～金　朝10分間）
Morning Broadcast （毎週火～金　朝５分間）		

２　研究主題のポイント

「聞きたい，話したい，伝え合いたい子ども」とは…

- 自分の思いを相手に伝えたり,相手の思いを知ろうとしたりすることの楽しさや大切さに気付く。
- 「自分から話したい」，「相手が話していることを聞きたい」，「自分のことや考え・思いをもっと知ってもらいたい」，「相手とかかわってもっと仲良くしたい」と願う。

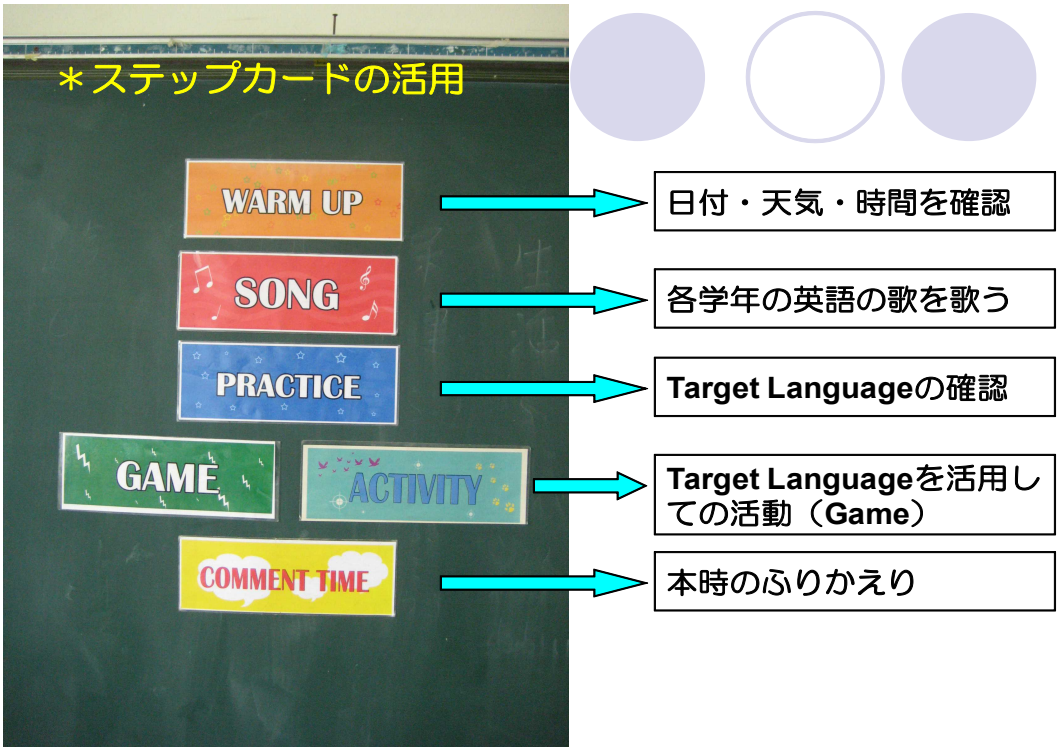
意欲的に相手にかかわろうとする子どもの姿

研究主題の「聞きたい，話したい，伝え合いたい子どもを育てる英語教育」とは，上記のような子どもの姿を考えています。外国に対する興味，外国語が通じるおもしろさ，人とふれあうことの喜びなど，意欲的に相手に関わろうとする子どもの育成をめざしています。

3　「必然性」のあるカリキュラム設定

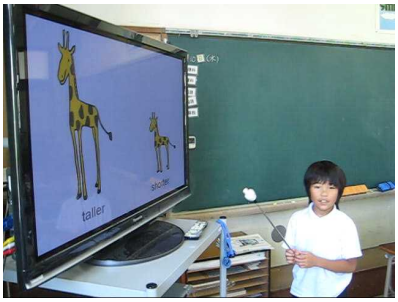
カリキュラム設定での工夫を紹介します。４年生の外国語活動「Opposite　Game」では，社会科と関連づけて実施しています。クイズ大会をして，県の広さ比べなど，子どもたちが自分で調べて作った問題を披露しました。子どもたちの意欲的な取り組みが見られました。

4　ステップカードの活用

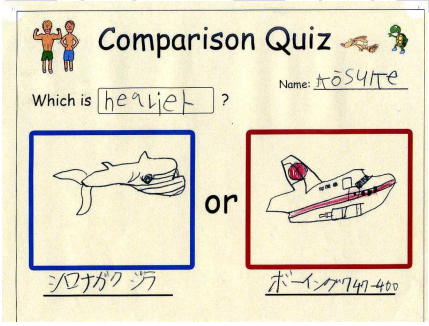


ステップカードとは「WARM　UP，SONG，PRACTICE，GAME，ACTIVITY，COMMENT TIME」の６つのことです。本時の Practice では，８ビートのリズムを活用し，子どもたちが教師の代わりになって発表しました。

◇Practice Time



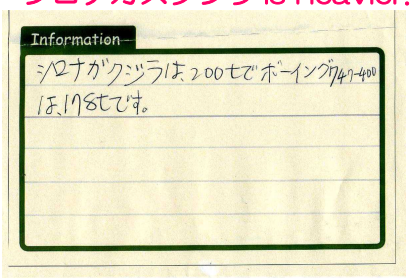
◇Opposite Game

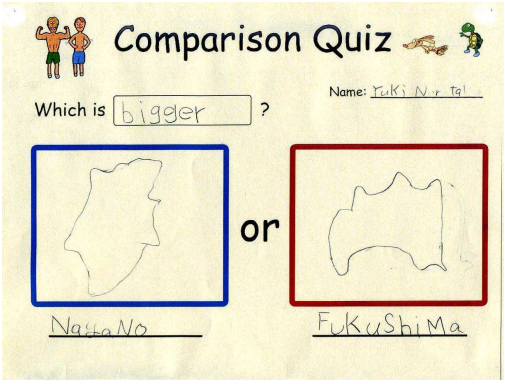


上の写真のように，まず Practice Time で「Taller，Shorter，Heavier，Longer」などの使い方を練習します。次に，Comparison　Quiz で，子どもたちが作った問題を，みんなで考えます。

The answer is・・・

シロナガスクジラ is heavier.

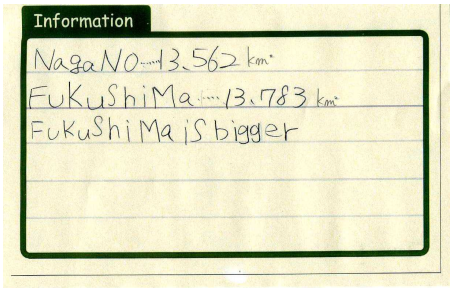




もちろん，答えと説明も示します。シロナガスクジラとジャンボジェットのどちらが重いでしょうというクイズと，長野県と福島県はどちらが大きいでしょうというクイズの例を示しています。

The answer is・・・

Fukushima is bigger.



◇Comment Time（学習のふり返り）

Teacher : Did you enjoy today's lesson?

・I enjoyed ____ , because it was fun.
interesting.
excited.
difficult.

・I think NAME's idea was good , because _____ .

Commennt　Time というのは，教師の発問に対してパターン化した答え方を用意して発言させるものです。友達のよかったところにも目を向けるようにさせています。

5　英語に浸る環境作り

子どもたちが，英語に浸る環境作りとしては，次のようなものがあります。

①校舎内外の英語表示

②クラスルームイングリッシュ

③英語放送　ア　ＡＬＴによる毎朝５分の生放送

イ　英語児童生活放送

ウ　発音体操ビデオの放送

④異文化理解・国際交流

⑤休み時間の有効活用

⑥学校行事の有効活用　ア　運動会
　　イ　学習発表会
⑦保護者・地域との連携　ア　イマージョンサポーター
　　イ　地域や校外の行事への参加

○「英語に浸る」環境づくり

＊英語放送　～Morning Broadcast　編～

ＤＶＤや音源が欲しい方は，コピーしてお渡しするので，ご連絡をください。

6　Morning　Meeting

①　Let"s　start　our　Morning　Meeting.
　　Stand　up.

あいさつ

②　Let"s　exchange　morning　greeting.
　　Good　morning　everybody.
　　How　is　the　weather?
　　What　day　is　it　today?
　　What　is　the　date　today?
　　What　time　is　it　now?

今月の歌

③　Let"s　sing　a　song.
　　Please　sit　down.

健康かんさつ

④　Health　check,　please.
　　How　are　you,　○　○？
　　I　am　good.
　　○　○　　is　absent.

日直のスピーチ

⑤　Please　listen　to　my　speech.

今日の予定

⑥　Let"s　check　today"s　schedule.

先生のお話

⑦　Please　listen　to　　○　○　teacher.

7　Returning　Meeting

①　Let"s　start　our　Returning　Meeting.

めあての反省

②　Let"s　reflect　on　today.
　　今日のめあてを言いましょう。
　　守れた人は手を挙げてください。
　　今日は，○　○人が守れました。
　　今日の反省を生かして，明日もがんばりましょう。

今日のきらりの発表

③　Let"s　announce　the　good　point　of　friend.
　　友達のきらりと輝くところを，発表しましょう。

係からのお知らせ.

④　Do　you　have　any　announcenent?

先生のお話

⑤　Please　listen　to　○　○　　teacher.

あいさつ

⑥　Let"s　　finish　the　meeting.
　　Stand　up.
　　Let"s　　come　well　tomorrow.
　　See　you　tomorrow.

外国人子女教育の実践

国際理解教育を通して，共生できる児童をそだてる

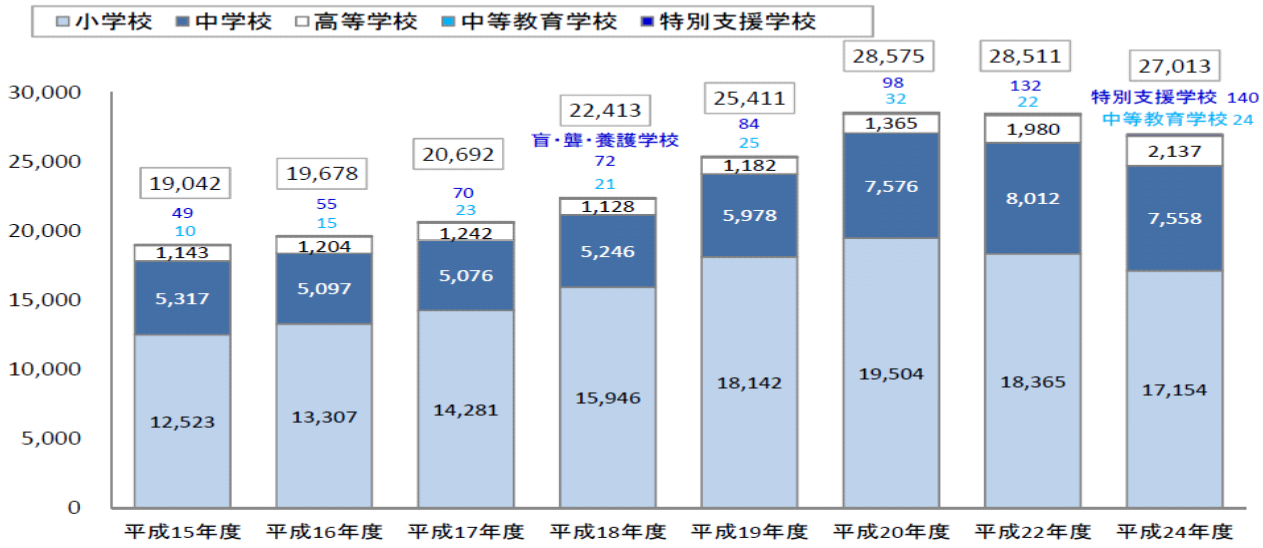
岡山市立津島小学校　三好　隆志

１　はじめに

岡山市立津島小学校は，岡山市の市街地北部半田山の南一帯を学区としていて，静かな住宅地がほとんどである。付近には，岡山大学・岡山理科大学・岡山商科大学・明誠学院高校などがあり，教育機関の多い文教地区となっている。また，学区は岡山市の中心部に近く，自然豊かで緑に包まれた静かな環境のため，急激に住宅が増加し，昭和４６年に伊島小学校から分離独立した。児童数は，約８００名で各学年４クラス，特別支援学級も４クラスある。大学が近くにあることで，留学生の子女がたくさん在籍している。滞在期間は，３年くらいが多くなっている。

２　岡山県の日本語指導

図1　日本語指導が必要な外国人児童生徒数



日本語指導が必要な外国人児童は，平成２４年度で約１７，０００人であった。愛知県がトップで，４千人を超え，静岡県・神奈川県・東京都と続いている。主に自動車産業に関係していると考えられる。愛知県と静岡県では，ポルトガル語を話す日系ブラジル人の割合が多い。

岡山県の日本語指導が必要な児童生徒をみると，小学生約５０人・中学生２５人となっている。岡山

市は，私が担当している津島小学校６人・伊島小学校２人で，財田小学校４人（中国）清輝小学校４人（フィリピン）・中央小学校５人（中国・フィリピン）御野小学校１人（マレーシア）である。総社市は，常磐小学校１２人（ブラジル・ロシア）中央小学校７人（ブラジル）神在小学校５人（ブラジル）である。

３　本校の外国人子女の状況

本校の外国人子女の状況は，右のようになっている。この中で，６人を取り出し指導している。岡山市の場合，２校を兼務する方式なので，月・水・金が津島小学校，火・木が伊島小学校の勤務としている。伊島小学校には，４人の外国人子女が在籍し，その中で２人を取り出し指導している。教科は，国語を原則としているが，児童によっては算数や社会なども指導している。

外国人子女の状況

- 　２５年度
- ６年　男　マレーシア　H22.11.22
- ６年　男　中国　H22.4.1
- ５年　男　アメリカ　H25.7.1
- ５年　男　中国　H21.4.1
- 4年　男　中国　H25.7.9
- ２年　男　マレーシア　H24.7.17
- ２年　男　台湾　H24.9.1
- １年　女　マレーシア　H25.4.1
- １年　女　パキスタン　H25.4.1
- １年　女　アイスランド　H25.4.1

４　環境整備

外国人子女の受け入れのため，次のような環境整備を行ってきている。

①昇降口に外国語のあいさつを掲示している。「おはよう」「さようなら」「ありがとう」を，日本語・英語・中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・マレー語・トルコ語・バングラデシュ語・スペイン語・ポルトガル語などで掲示している。

②外国人子女の出身国を，世界地図で示して掲示している。

③世界時計を掲示している。日本・中国・インドネシア・バングラデシュ・ケニア・スペインとの時差を示している。

④日本語教室の廊下に，「世界を知ろう」というコーナーで，ニューヨークのセントラルパークやボリビアのウユニ塩湖などの写真を掲示している。

⑤教室内では，国旗や自己紹介カードなどを掲示している。

⑥教室の後ろの棚には，世界の品物を展示している。

⑦入学式や卒業式での国旗掲示

環境整備（昇降口下校時）

①

環境整備（世界地図）

②

環境整備（世界時計）

③

環境整備（教室廊下）

④

⑤ 環境整備（教室内）

⑥ 環境整備（教室内）

⑦

5　学級新聞

毎週，日本語教室の学級新聞を発行している。漢字には全て読み仮名を振っている。学級の児童の写真を入れて，学校での様子を分かりやすく保護者に伝えたので，好評であった。

学級新聞

岡山市立津島小学校　日本語教室

お便り

3月19日
第41号
担任　三好　隆志

最近の子どもの特徴

最近の子どもたちは，自分の思うようにいかないと，「キレル」「パニックになる」ということがよく見られます。その結果，がまんがたらないとかわがままになったと言われてしまいます。しかし，大人が子どもに成功ばかり求めすぎて，結果にこだわっているということも原因かもしれません。たとえば，メジャーリーグの名門ヤンキースで活躍しているイチロー選手は，世界に誇る日本人として有名です。たしかに，イチロー選手は才能豊かな上に，すごく努力しています。しかし，イチロー選手は失敗したことがなかったわけではありません。その失敗から，数多く何かを学び，自分の力に変えていったのです。たとえば，現在行われている WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）の前回大会では，ずっと不振でした。しかし，優勝戦で，決勝点をあげる活躍ができたのは，決して運だけではなかったと思うのです。「失敗は成功のもと」（Failure teaches success）という言葉があります。失敗こそが，新たな考えや自分を生み出すエネルギーとなるのではないでしょうか。失敗を自分のこととして受け入れ，次にどうすればいいかを考える経験をたくさんしている子どもは，きっと未来につながる生きる力を身につけていると思います。わたしたち大人が，「何をしているんだ，こうしなければいけないんだ。」としかるばかりでいたら，子どもはそれに従うことばかりを考え，成長するきっかけを失っているのです。子どもが失敗したときこそ，考えさせるチャンスなので，どのような言葉かけをしたらよいか，しっかり考えることが大切です。このことは，最近急増して，クラスに3人くらいはいると言われる，発達障害の子どもに対しても同じです，ADHD や自閉症，アスペルガーなど，他人とうまくコミュニケーションがとれない子どもたちは，特にパニックになることが多いです。前向きな声かけ，得意なことをほめ，自信をもたせ信頼関係を作るなど，関わり方を考えていきたいと思いました。

岡山市立津島小学校　日本語教室

お便り

3月25日
第42号
担任　三好　隆志

さようなら Sampai jumpa lagi.

3年生のアハマドさんと，1年生のハナさんが，インドネシアに帰ります。3年間いた日本のことを，いつまでも忘れずにいてほしいです。そして，できれば大学生になって，また日本にもどってきてほしいです。アハマドさんは，ロボットを研究する科学者になりたいそうですよ。わたしは，二人のふるさとロンボク島に行ったことがあります。岡山県より少し小さいくらいの島で，人口は岡山県より多く，海が美しい所でした。王族の博物館や水族館，小舟で渡った小島などが記憶にあります。できれば，バリ島に行ったらロンボク島にも立ち寄って，二人に会いたいです。

さて，この前は日本語教室で，ケーキを作りました。みんな大喜びで，フルーツを切ったり，生クリームをぬったりしていました。当日は，給食でもケーキが出たから，子どもたちは，とっても満足だったことでしょう。今年度は，ホットケーキ・焼いも・お好み焼き・おもち・たこ焼きなど，いろいろとチャレンジしました。また，来年度も新しい料理にチャレンジしたいです。それと，かんたんにできる，お国料理がありましたら，また作り方を教えてください。

来年度のこと

わたしは，来年度もひき続き，日本語教室の担当を希望しています。希望がかなったら，またよろしくお願いします。また，生活も大きく変わっていきそうです。家族は，妻と娘の3人ぐらしだったのですが，4月から娘が東京の大学に進学することになりました。夫婦水入らずといきたいところですが，つい夫婦見ず知らずになってしまいそうです。まずは家庭の平和が，生活の基本なので，がんばっていきたいです。みなさんも，日本では4月から新年度になり，新しい環境になるので，まわりの人たちと仲良く，楽しくスタートをきってほしいと思います。そして，自分の能力をしっかり発揮して，充実した生活になることを期待しています。

6　俳句作り

日本赤十字が募集している「いのちと献血俳句コンテスト」に，毎年学校全体で取り組み，３年連続で学校賞を授賞している。日本語教室でも，全員が取り組んでいる。

作品例

「日本語は　ひらがな漢字　難しい」６年

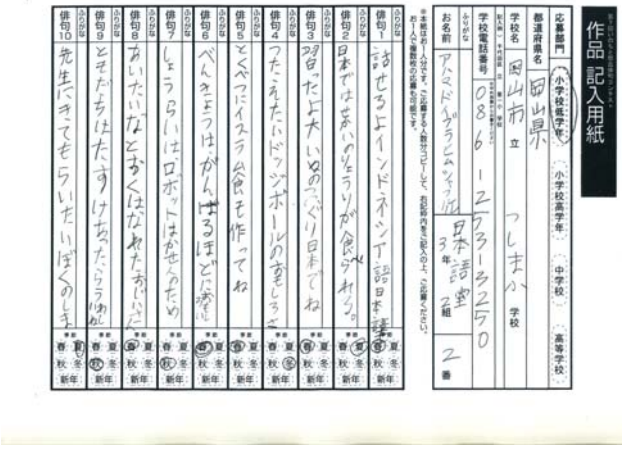
「話せるよ　インドネシア語　日本語も」３年

「先生に　来てもらいたい　ぼくの島」

「マレーシア　なつは日本が　あつかった」１年

「たいわんと　日本の国と　ぼくたちと」

「おいのりで　かぞくみんなが　げんきでね」



7　スピーチ

朝の会などで，外国人子女が自分の国についてスピーチを行い，相互理解をしている。また，保護者が一緒に話をすることもある。資料については，児童と一緒に図書の本やインターネットなどで調べたり，保護者が撮った写真や具体物を使ったりしている。

スピーチ3年生

スピーチ１年生（台湾）

スピーチ１年生（インドネシア）

スピーチ６年生（マレーシア）

8　授業案

・題材名　　４つのきせつ
・題材の目標　日本の気候について理解し，自分の国と比較することができる。
・指導計画　　日本語を学ぼう　１７課
・指導について　個人研究テーマ「国際理解教育を通して，共生できる児童を育てる」
　本時では，日本に四季があることと，南北に長いため北海道と沖縄では，気温の差が大きいことを理解させる。そして，マレーシアは熱帯で１年中気温が高く，雨季と乾季に分かれる気候であることと比較して考えることができるようにする。
・本時案（第１７課）

目　標	日本の気候について理解し，自分の国と比較することができる。
学習活動	○教師の支援と★評価
1　めあてをつかむ。 日本とマレーシアの気候を比べよう。	○温度計や世界地図などを見せることで，日本とマレーシアの気候を比べることを伝える。
2　自分の考えをもつ。	○冬の北海道の写真と，マレーシアのビーチの写真を見せることにより，日本は寒い冬など四季があり，マレーシアは熱帯で１年中暑いことを予想することができるようにする。
3　考えを出し合う。	○１年のカレンダーを掲示することにより，日本の四季に気付くことができるようにする。 ○２つの国の気温と雨量のグラフを掲示することにより，マレーシアは，１年中暑いことと雨季と乾季があることに気付くことができるようにする。 ○四季や雨季などのマレーシア語をたずねることにより，教師と言葉やその背景にある文化を学び合うようにする。 ○２月の日本の様子を掲示することにより，日本は南北に長く，北に行くほど気温が低く，南に行くほど気温が高くなり気温の差が大きいことに気付くことができるようにする。 ○１年のカレンダーで出てきた日本語の文型を練習させる。 「～て」理由（寒くて，かぜをひいてしまいました） 「～のために」理由（台風のために電車が止まることがあります） 　いろいろな友達の挿絵と文例を示すことにより，その場に合った文型を身につけるようにする。 **○繰り返し発音することにより，発音や発表に自信をもつことができるようにする。**
4　学習を振り返る。	日本とマレーシアでは，気候が大きく違うが，世界にはこのように様々な気候があり，人々のくらしがあるということをまとめる。たくさんの世界の人々の写真を示すことにより，一人一人が大切な人間であり，それぞれの国を尊重し合い，地球市民として仲良くしていこうという態度を養う。 ★日本とマレーシアの気候の違いを理解し，それぞれのよさを認めることができる。【発言】

題材名「４つのきせつ」の板書

題材名「きせつと生き物」の板書

日本語指導学習指導案

平成２５年１０月２１日(月) 第５校時　指導者　三好 隆志

・題材名　　きせつと生き物
・題材の目標　日本の気候と動植物について理解し，自分の国と比較することができる。
・指導計画　　日本語を学ぼう　１８課
・指導について　個人研究テーマ「国際理解教育を通して，共生できる児童を育てる」
　本時では，日本に四季があり，自然の姿も変わっていく。季節ごとにどのように変わっていくか，動物や植物の様子を考え理解させる。そして，マレーシアは熱帯で１年中気温が高いため，その動物や植物と比較して考えることができるようにする。
・本時案（第１８課）

目　標	日本の気候と動植物について理解し，自分の国と比較することができる。

学習活動	○教師の支援と★評価
1　めあてをつかむ。	○４枚の絵を見せることで，日本とマレーシアの気候と動植物を比べることを伝える。
日本とマレーシアの気候と動物や植物を比べよう。	
2　自分の考えをもつ。	○冬の北海道の写真と，マレーシアのビーチの写真を見せることにより，日本は寒い冬など四季があり，マレーシアは熱帯で１年中暑いことを想起し，動植物の予想することができるようにする。
3　考えを出し合う。	○１年のカレンダーを掲示することにより，日本の四季を春夏秋冬と分けることができるようにする。 ○日本の春の絵から順番に，動植物の様子を調べることができるようにする。 ○チューリップやテントウムシやサクラなどのマレーシア語をたずねることにより，教師と言葉やその背景にある文化を学び合うようにする。 ○絵にはない，鳥や魚などの様子を考えさせることで，今までの日本での経験が生きていることに気付くことができるようにする。 ○マレーシアの動植物を見て，日本と比べることができるようにする。 ○１年のカレンダーで出てきた日本語の文型を練習させる。 「～つれて」(季節が変わるにつれて，自然の姿も変わります) 「～てくる」(春になって，暖かくなってきました) 　いろいろな友達の挿絵と文例を示すことにより，その場に合った文型を身につけるようにする。 **○繰り返し発音することにより，発音や発表に自信をもつことができるようにする。**
4　学習を振り返る。	日本とマレーシアでは，気候が大きく違うが，世界にはこのように様々な気候があり，人々のくらしがあるということをまとめる。世界の写真を示すことにより，それぞれの国を尊重し合い，地球市民として仲良くしていこうという態度を養う。 ★日本とマレーシアの気候の違いを理解し，それぞれのよさを認めることができる。【発言】

日本語指導学習指導案

平成２５年９月２７日(金) 第２校時　指導者　三好　隆志

・題材名　　世界の絵画（対象６年マレーシア児童）
・題材の目標　世界の子どもたちの絵画を見て，比較することができる。
・指導計画　　絵カード５　（身の周りの物）
・指導について　個人研究テーマ「国際理解教育を通して，共生できる児童を育てる」
　本時では，世界の子どもたちの絵画を鑑賞して，世界の文化の違いを感じとるとともに，日本の子どもが描いた空襲の絵から，平和の大切さについて考えることができるようにする。

・本時案

目　標	世界の子どもたちの絵画を見て，比較することができる。
学習活動	○教師の支援と★評価
1　めあてをつかむ。	○絵が得意な本児に,同じマレーシアの子どもが描いた絵を見せることで,世界の子どもたちの絵を比べることを伝える。
世界の子どもたちの絵を見よう。	
2　自分の考えをもつ。	○マレーシアは熱帯で１年中暑いため，太陽や椰子の木などが表現されている。それぞれの国もその自然や文化を表現していることを予想することができるようにする。
3　考えを出し合う。	○ブルガリアは「花・金髪・青い目」タイは「マングローブ」ポーランドは「雪だるま・スケート」シンガポールは「高層ビル」アイルランドは「ペンギン」インドネシアは「ダンス・民族衣装・オランウータン・コモドドラゴン」など，自然や文化の違いに，気付くことができるようにする。 ○それぞれの国を地球儀で見つけることにより，ヨーロッパと東南アジアの国を取り上げていることに気付くことができるようにする。 ○マレーシアの学校では,どんな絵を描いていたかをたずねることにより,教師とその国の背景にある文化を学び合うようにする。 ○子どもが描いた空襲の絵を掲示することにより，日本は６８年前に戦争をしていて，異常な情景だったことに気付くことができるようにする。 ○日本語の身の周りの言葉を練習させる。 「バット」「ギター」「新幹線」「けん玉」「太鼓」「消防車」「救急車」「下駄」「着物」「ハーモニカ」「輪投げ」「カルタ」「キップ」いろいろな絵カードを示すことにより，日本語の語彙や文化を身につけるようにする。 **○繰り返し発音することにより，発音や発表に自信をもつことができるようにする。** 日本とマレーシアでは，自然や文化が大きく違うが，世界にはこのようにたくさんの文化があり，人々のくらしがある。しかし，それは平和という大前提があり，それぞれの国を尊重し合い，地球市民として仲良くしていこうという態度を養う。
4　学習を振り返る。	★世界の子どもたちの絵画の違いを理解し，それぞれのよさを認めることができる。【発言】

９　日本語教室での会食

　月に１回，給食を持ち寄って会食をしている。また，たこ焼き・焼きそば・焼き芋・お好み焼き・ホットケーキ・きなこ餅・ケーキなどの料理を作っている。

会食の様子

１０　外国人のゲストティーチャー

外国人のゲストティーチャー

外国人のゲストティーチャー

津島まつりのオープニングセレモニーで，外国人を招待して，その国の言葉や日本の印象などを話してもらっている。また，夏休みの図書館行事で，「外国を知ろう」という時間を設けている。主に，日本語指導の外国人保護者や留学生に来てもらっている。

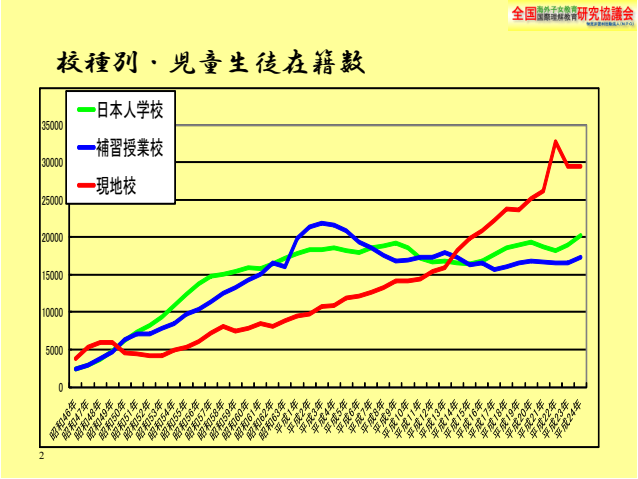
情報提供　　全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会　　監事　松下　安男

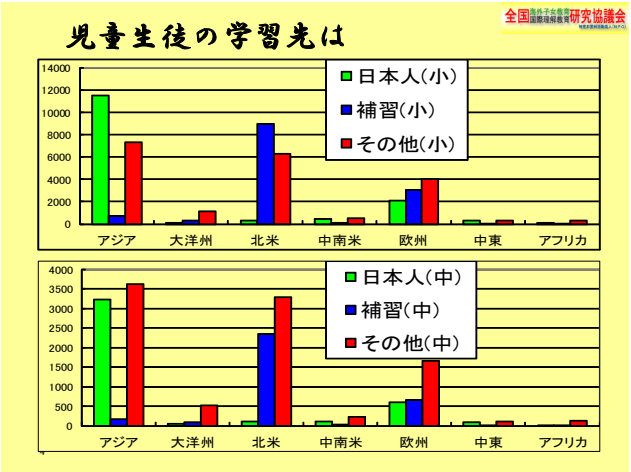
「国際理解教育の現状と，海外日本人学校・補習校の様子」

世界を見てきた派遣教員の，国際理解教育への実践についてお話しします。

カナダの国道（ずっと見えても２０ｋｍ）

リオのキリスト像（テレビ塔から撮影）



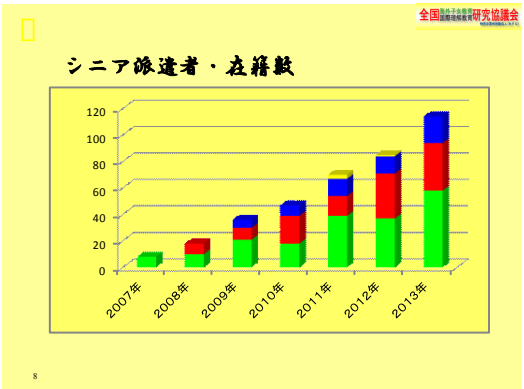


海外で，児童生徒の学習先は，上のグラフのように現地校の割合が高くなっています。日本人学校と補習校の在籍数は，ほぼ同じくらいです。地域別では，補習校や現地校は北米や欧州の割合が高いですし，日本人学校の割合はアジアで多くなっています。これは，英語を現地で習得しようという考えによるところが大きいものと思われます。

日本人学校派遣数（2013年）

学校名	派遣数	学校名	派遣数	学校名	派遣数	学校名	派遣数	学校名	派遣数
ﾊﾞﾝｺｸ	70	ﾆｭｰ･ﾃﾞﾘｰ	14	ｱﾑｽﾃﾙﾀﾞﾑ	12	釜山	8	ﾌﾞｶﾚｽﾄ	6
上海･虹橋	42	ﾊﾉｲ	14	ｼﾗﾁｬ	12	ｱｸﾞｱｽ･ｶﾘｴﾝﾃｽ	7	ﾎﾞｺﾞﾀ	6
上海･浦東	41	ﾌﾞﾗｯｾﾙ	14	ﾄﾞﾊﾞｲ	12	ｳｨｰﾝ	7	ﾏﾅｳｽ	6
ｼﾞｬｶﾙﾀ	29	香港･小	14	ﾐｭﾝﾍﾝ	12	ｶｲﾛ	7	ﾜﾙｼｬﾜ	6
台北	29	ｼｶｺﾞ	13	ﾊﾝﾌﾞﾙｸﾞ	11	ｻﾝ･ﾁｬｺﾞ	7	ｶﾗ･ｶｽ	5
ｸｱﾗﾙﾝﾌﾟｰﾙ	26	ｼﾞｮﾎｰﾙ	13	深セン	11	ﾃﾍﾗﾝ	7	ｸﾞｧﾃﾏﾗ	5
北京	25	ﾆｭｰ･ｼﾞｬｰｼﾞｰ	13	ｼﾄﾞﾆｰ	10	ﾄﾞｰﾊ	7	ｺﾀ･ｷﾅﾊﾞﾙ	5
ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ･ﾁｬﾝｷﾞ	21	ﾊﾟﾘ	13	青島	10	ﾅｲﾛﾋﾞ	7	ｺﾛﾝﾎﾞ	5
ﾃﾞｭｯｾﾙﾄﾞﾙﾌ	21	ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ	13	ｱﾌﾞﾀﾞﾋﾞ	9	ﾌﾞｴﾉｽ･ｱｲﾚｽ	7	ｻﾝ･ﾎｾ	5
ﾏﾆﾗ	20	ﾌﾟﾗﾊ	13	ｲｽﾀﾝﾌﾞﾙ	9	ﾍﾞﾙﾘﾝ	7	ｼﾞｪｯﾀﾞ	5
ﾛﾝﾄﾞﾝ	20	ﾍﾟﾅﾝ	13	ﾊﾞﾙｾﾛﾅ	9	ﾎﾞﾝﾍﾞｲ	7	ﾊﾞﾊﾚｰﾝ	5
ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ･ｸﾚﾒﾝﾃｨ	18	ﾒｷｼｺ	13	ﾌﾞﾀﾞﾍﾟｽﾄ	9	ﾖﾊﾈｽﾌﾞﾙｸﾞ	7	ﾊﾞﾝﾄﾞﾝ	5
ｿｳﾙ	18	ﾓｽｸﾜ	13	ﾐﾗﾉ	9	ﾛｰﾏ	7	ﾘｵ･ﾃﾞ･ｼﾞｬﾈｲﾛ	5
広州	18	ｻﾝ･ﾊﾟｳﾛ	13	ﾒﾙﾎﾞﾙﾝ	9	杭州	7	ﾘﾔﾄﾞ	5
ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ･中学部	16	香港･中学部	13	ﾛｯﾃﾙﾀﾞﾑ	9	ﾏﾄﾞﾘｯﾄﾞ	7	ｶﾗﾁ	4
香港･大埔校	16	高雄	13	ｸﾞｱﾑ	8	ｱｽﾝｼｮﾝ	6	ﾁｭｰﾘｯﾋ	4
ﾆｭｰ･ﾖｰｸ	15	台中	13	ｽﾗﾊﾞﾔ	8	ｲｽﾗﾏﾊﾞｰﾄﾞ	6	ﾊﾟﾅﾏ	4
ﾎｰﾁﾐﾝ	15	大連	13	ﾔﾝｺﾞﾝ	8	ﾀﾞｯｶ	6		
蘇州	15	天津	13	ﾘﾏ	8	ﾊﾟｰｽ	6		

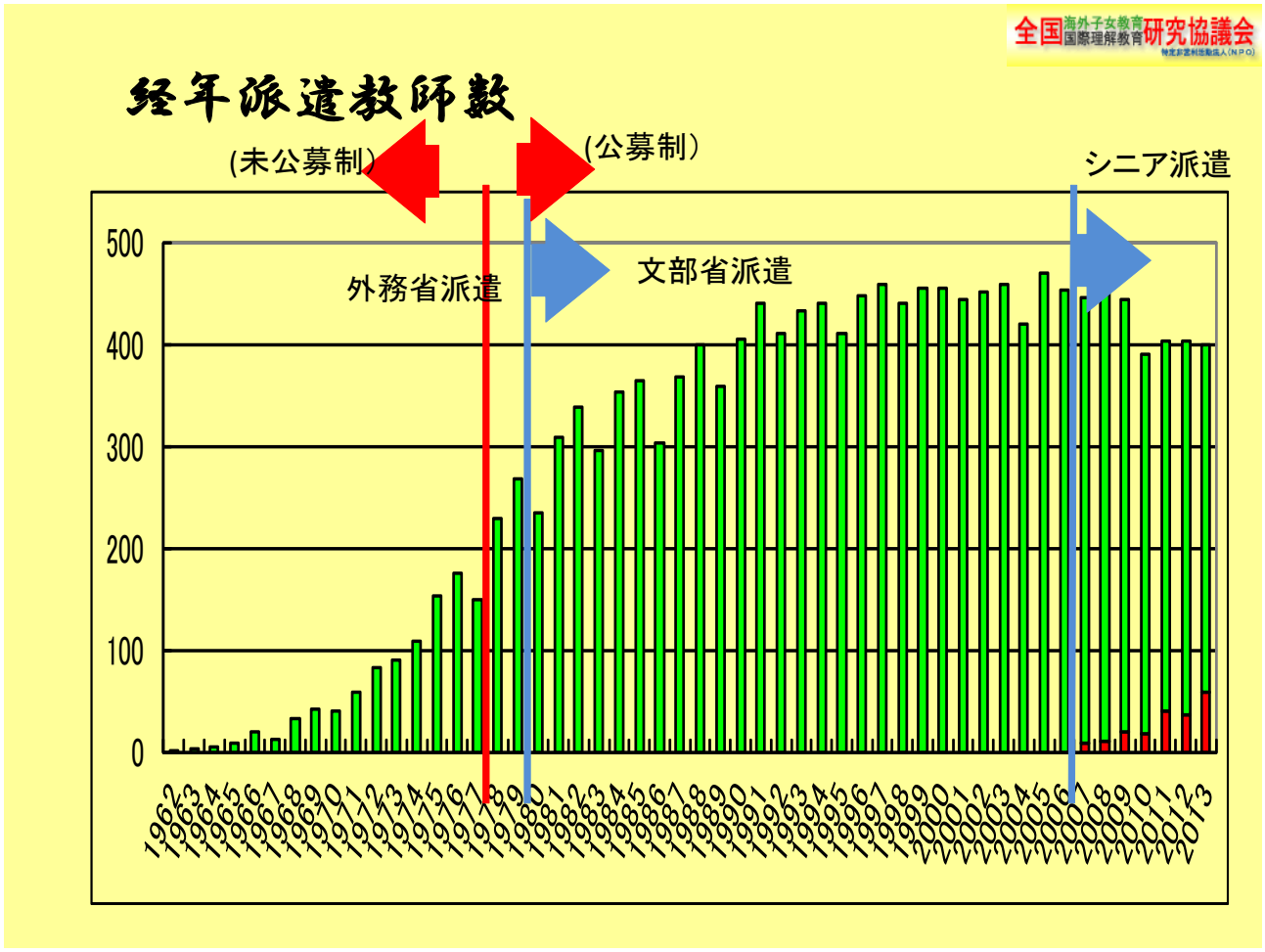
6

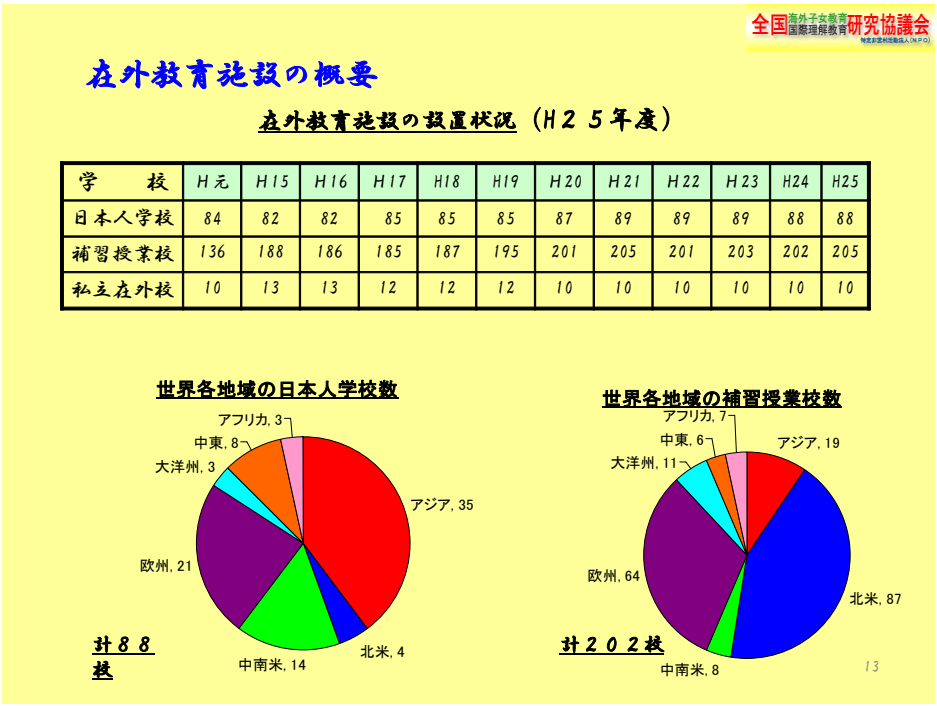


8

今年も約４００人の先生方が海外に派遣されています。毎年の派遣教師の推移ですが，総数は減少傾向でシニア派遣は年々増加しています。シニア派遣は，２０１３年度の派遣数５８名で，総数は１１０人を超えています。派遣者数の多い日本人学校としては，バンコクが７０人，上海虹橋が４２人，上海浦東が４１人，ジャカルタと台北が２９人，クアラルンプール２６人，北京が２５人となっています。逆に，派遣者数の少ない日本人学校としては，カラチやパナマやチューリッヒなどが４人となっています。

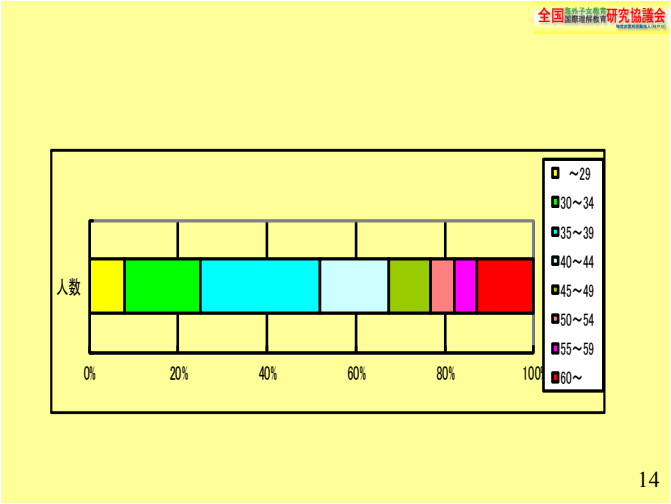
さて，シニア派遣の経緯ですが，全海研が「派遣者のいない補習授業校」すなわち，在籍児童生徒100名以下の所に，退職した元気のいい人を派遣し，補習授業校の教員資質を向上させようと文科省に提案し，財務省との協議により発案の意図とは違っていましたが発足したものです。結果的には100名以下の所ではなく，今まで派遣していたところに，ただ単にシニアに置き換えて出費を減らそうとして発足したまでのことなのです。このシニア派遣制度は，個人での応募であり，各都道府県教委の拘束力がなくなり，個人への罰則もないことから応募者が増加しています。したがって，途中リタイアされて勝手に帰国してくる者や，派遣中何もしないで，自分の趣味を満喫してきた者も多く出るようになり，現在精査しているところなのです。





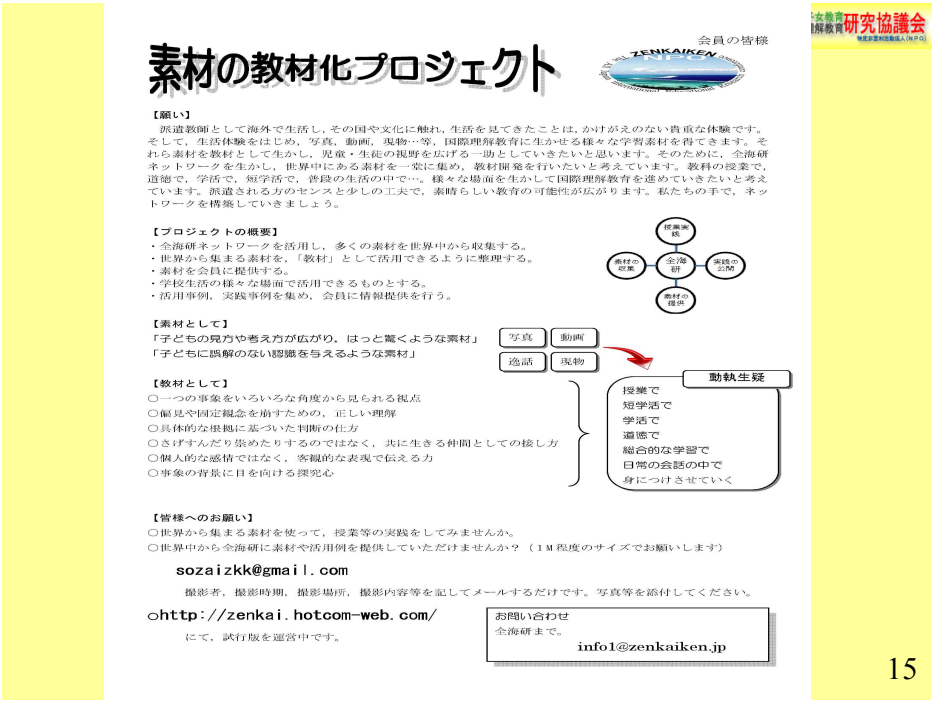
学　　校	H元	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
日本人学校	84	82	82	85	85	85	87	89	89	89	88	88
補習授業校	136	188	186	185	187	195	201	205	201	203	202	205
私立在外校	10	13	13	12	12	12	10	10	10	10	10	10

在外教育施設の概要は，上の表のようになっています。日本人学校は，アジアに多く８８校あります。それに対して，補習授業校は，北米や欧州に多く，２０５校となっています。世界の補習校には，もし旅行などで行けたらぜひ寄ってあげて下さい。大変喜ばれると思います。



上のグラフは，派遣教員の年代別構成です。３０代の若い教員が約半数を占め，日本の学校と大きな違いがありますが年齢枠が撤廃され，年代の幅が以前よりは広がっています。

。



さて，素材の教材化プロジェクトについてお話しします。私たちは，ただ旅行に行って観光地など目立ったところを見てきたということではなくて，実際の生活の場を経験してきたわけです。まあ，いろんなことを見てきているわけです。そんなみなさんは，在外教育施設で素材を収集できましたか。映像をたくさん撮られた方も多いことでしょうが，映像素材作成にあたっては，明確な目的の提示が必要です。そういう意味では，スナップ写真などは厳禁です。海外派遣経験者が，全て国際理解教育を推し進め，経験を還元していたなら，日本の子どもたちは世界に通用する素晴らしい教育ができていたはずですが，残念ながら多くの派遣経験者が，埋もれてしまっています。例え，帰国後の勤務校で，海外での経験を話しても，毎回同じ話では，子どもたちに飽きられてしまいます。だから，全海研の仲間が集まって教材を共有化し，国際理解教育を広げていってほしいのです。ぜひ，貴重な静止画・動画などの資料素材を，全海研のホームページを利用してストックさせてください。

さて，私たち教員は，子どもが一家団らんの時に，１日１つは話題を提供できるようにしたいと思います。また，子どもたちが学校に朝起きて，喜んで行けるような気持ちにさせるよう楽しい
学校を作っていかなければいけません。私たちは，子どもたちに「日本人としての自信・誇りを持たせ，生命・人命を尊ぶ姿勢を持った人間を育てたいものです。

どうぞ，今までの経験を生かして，児童・生徒に「あたたかい教育」を，さらにあたたかい教職員関係を構築してください。みなさんの，地元でのご活躍をお祈りしています。

展示物

タイ

マレーシア

アメリカ

あとがき

残暑の大変厳しい折，２０１３（平成２５）年８月２２日，くらしき健康福祉プラザを会場に開催された第２１回岡山県国際理解教育研究大会は，会員を中心に約７０名の参加のもと盛会に終了することができました。

今回の研究大会は，備中支部の担当ということでしたが，実際には県の役員の皆様・事務局の皆様に多大の協力をいただき無事開催できました．本当にありがとうございました。

さて，このたびの大会は，授業公開を伴わない午後日程の開催で行いましたが，内容は大変充実したものでした。

まず，開会行事の後３名の先生方の実践報告がおこなわれました。実践報告は，「岡山県国際理解教育研究会の取り組みについて」「学校全体で英語を取り入れた取り組みについて」「台北日本人学校での取り組みについて」とバラエティーに富んだ内容で，様々な角度から国際理解教育の取り組みを知ることができ，充実したものでした。３名の実践発表者の方々にはお忙しいところ，準備等本当にありがとうございました。

次に，原　明子（岡山市 ESD 世界会議推進局副主幹）さんによる講演『ESD って何？～ ESD の視点で育てたい子ども』を行いました。耳慣れない ESD という言葉の意味についての説明を聞き（ESD とは持続可能な開発のための教育），実際の原さんの地域（公民館を利用した）での取り組みについて伺うことで，少しずつ ESD の大切さを実感することができました。また，国際理解教育との共通点も多く，学校教育にも取り入れるためのワークショップも楽しく行うことができました。自分のこと自国のことだけを考えて生活していたら人類全体が滅ぶ危険があることを真剣に考えていく必要があることを学びました。また，地球や人類が持続して存続していくために今の自分に何ができるかということなどを考える機会になりました。２０１４年岡山市で「ESD に関するユネスコ世界会議」が行われるということなので，積極的に参加し学習していけたらと思いました。

岡山県には２００名もの在外日本人学校での教職経験者がおり，今後とも，それぞれの体験をもとに日本での教育活動に生かしていくことが改めて重要であると確認しました。そのためにも岡山県国際理解教育研究会の取り組みをさらに前進させることが必要であると思います。会員の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いします。

最後になりましたが，本研究会のご後援をいただいた岡山県教育委員会，倉敷市教育委員会，岡山市教育委員会，（財）福武教育文化振興財団をはじめ，本大会のためにお力添えをいただいた関係者の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

２０１３（平成２５）年８月２６日

副会長（高梁地区）　三村　秀樹

第２１回	岡山県国際理解教育研究大会報告書
発　　行	２０１３（Ｈ２５）年１２月１日
発行責任者	岡山県国際理解教育研究会
	会長　　鳥居　恭治
事　務　局	岡山市立中央小学校
	ＴＥＬ　（086）234-7750

※この研究大会は，福武教育振興財団の助成を受けています。